

マレック・ シュパキエヴィッチ

チェロ・リサイタル

MAREK SZPAKIEWICZ CELLO RECITAL WITH JIAYI SHI

◎ バッハ (シロティ/カザルス編)

トッカータ、アダージョとフーガ ハ長調 BWV564より アダージョ

Bach (Arr. by Siloti / Casals): Adagio from Toccata, Adagio and Fugue in C major BWV564

◎ シューベルト

アルペジオーネ・ソナタ イ短調 D821

Schubert: Arpeggione Sonata in A minor D821

◎ バーンスタイン (シュパキエヴィッチ編)

クラリネット・ソナタ

Bernstein (Arr. by Szpakiewicz): Sonata for Clarinet and Piano

◎ フランク

チェロ・ソナタ イ長調 (原曲: ヴァイオリン・ソナタ)

Franck: Sonata for Cello and Piano in A major (Original: Sonata for Violin and Piano)

◎ ショパン (イザイ/シュパキエヴィッチ編)

バラード 第1番 短調 Op.23

Chopin (Arr. by Ysaÿe / Szpakiewicz): Ballade No.1 in G minor Op.23

マレック・シュパキエヴィッチ (チェロ)

Marek Szpakiewicz, Cello

ジアイ・シー (ピアノ)

Jiayi Shi, Piano

2018.

10.25 [木] 19:00 開演 (18:30 開場)

ヤマハホール

全席指定 ¥4,500 (消費税込)

チケットぴあ 0570-02-9999 <http://pia.jp/t/>
[Pコード: 118-226]

e+ (イープラス) <http://eplus.jp/>

後援: 駐日ポーランド共和国大使館
ポーランド広報文化センター
エル・システムジャパン



制作・お問合せ: 株式会社1002 [イチマルマルニ]
03-3264-0244 <http://www.1002.co.jp/>

※都合により、出演者・プログラム・曲順などが変更される場合がございます。
※未就学児の同伴・ご入場はご遠慮ください。

チェロのポテンシャルを追い求めるポーランドが生んだ稀代の音楽家
〜器楽の垣根を越えて〜

本公演の収益金の一部を
エル・システマジャパンへ寄付します

福島から始まった エル・システマジャパンの取り組み

エル・システマは、1975年に南米ベネズエラで始まった社会変革を目指した音楽教育プログラムです。希望するすべての子どもがオーケストラやコーラスなどの集団での音楽活動を経験できるよう、無償の音楽教室を開き、学校や年齢が異なる子どもたちが共に学び、互いに教え合い、高め合い、成果発表の場や交流の機会を持てるようにしていることが特徴です。これらの経験を通して、自分自身や仲間に関心を持ちながらコミュニケーション力を磨くことで、社会で生きていく力を育みます。芸術に触れる機会が少ない子どもや、社会的な困難さに直面している子どもたちにも場を開くと同時に、芸術的な高みも日々追求しています。

日本では、東日本大震災後に福島県相馬市での週末教室から活動を開始し、現在は岩手県大槌町、長野県駒ヶ根市でも活動を展開しています。さらに東京では、声を出して歌う合唱と、手歌で表現する合唱の二つが一組となって演奏する芸術表現「ホワイトハンドコーラス」の活動を聳学校に通う子どもたちと開始するなど、少しずつ活動の幅を広げています。

設立当初から、指導に通ってくれるボランティア、練習場所や技能のご提供、楽器の寄贈や修繕のご協力、チャリティコンサートによるご寄付や毎月のご支援など、支援してくださる方々の温かい思いの連なりによって、5年という短い年月の間にも子どもたちは大きく成長しました。他の地域や海外のエル・システマ活動との交流演奏会の機会も増えてきています。さらにその子どもたちの姿に希望を見出したり、自らも楽器を習い始める大人も出てきています。

音楽を通して子どもたちがつながり、子どもたちの音楽を通して地域がつながる。エル・システマジャパンはこれからも、音楽が人をつなぎ、地域や社会を変えていく活動を続けてまいります。



ヤマハホール

〒104-0061 東京都中央区銀座7-9-14
03-3572-3139 (10:00 ~ 18:00 / 平日のみ)

交通のご案内

- 東京メトロ銀座線・丸の内線・日比谷線「銀座」駅
A3出口より徒歩4分
※A3出口は、工事に伴い閉鎖中です。A2出口をご利用ください。
閉鎖期間: 2018年4月7日(土) ~ 2018年10月予定
- 都営地下鉄浅草線「新橋」駅、「東銀座」駅より徒歩7分
- JR線「新橋」駅より徒歩7分

MAREK SZPAKIEWICZ CELLO RECITAL WITH JIAYI SHI

マレック・シュパキエヴィッチ (チェロ) Marek Szpakiewicz, Cello

マレック・シュパキエヴィッチはヨーヨー・マ氏から「エネルギー、モチベーション、真摯さ、そして寛容な心を持っていることが自明なアーティスト」と評され、ピューリッツァー賞を受賞した作曲家ジョン・コリリアーノ氏から「シュパキエヴィッチ氏が演奏した私の作品『Fancy on a Bach Air』は、素晴らしく華麗である」と、高い評価を得ている。

ポーランドに生まれ6歳からチェロを始める。渡米後、ジョンズ・ホプキンス大学ピーボディ音楽院でスティヴン・ケイツ氏に師事。その後、南カリフォルニア大学ソロトン音楽学校でエレン・ア・ショーンフェルド女史に学び、音楽修士号と音楽芸術博士号を取得。数々の国際コンクールで優勝、入賞し、ヨーロッパ各国とアメリカでソリストとして活躍。「天賦の才能ある演奏家」、「壮大なビジョンと計り知れない説得力を持つ」、「際限のない技術性」などと賞賛され、これまでポピー・マクファーリン、アン・アキコ・マイヤース、岩崎光などと共演している。

オーケストラ編曲の分野でも活躍し、映画音楽作曲家ヤン・A・P カチュマレク氏の作品に携わる。共同で手掛けた映画音楽『ネバーランド』は2005年第77回アカデミー作曲賞を受賞。同氏の映画音楽では、リチャード・ギア主演『HACHI—約束の犬』(09年夏公開)や松井久子監督の『レオニー』(10年秋公開)などで、印象的なソロを聴かせた。

08年アメリカ政府から「特殊で卓越能力をもつアーティスト」として永住権を授与された。アメリカ国内はもとより国際的称賛が継続し、これまでの業績が認められたためである。11年には東日本大震災チャリティコンサートを企画し、ロサンゼルス郡参事よりその献身的活動に対して表彰を受けた。また福島県相馬市のエル・システマジャパンを、コンサートや文化交流を通じて12年の創設時から支援している。

15年、東京での初リサイタルを開催。「1つ1つの音を精魂込めて追求しながら丹念に情景を描いていく独自の解釈は、芸術的高みへと収斂」、「生命体としての音楽を自らのメッセージと共に纏め上げていく濃密な表徴は印象的」、「技術と感性と知性が均衡した演奏」、「自身の中に深い音楽世界を内包している稀有な音楽家」と評価された。当公演のライブ録音はDSD (ダイレクト・ストリーム・デジタル) で国内ではe-onkyo、国外ではNativeDSDにより販売。続く16年東京公演のライブ録音はPrimeSeatによりオンデマンド配信がなされた。

Epic Records、Delos、Varèse SarabandeなどからCDをリリース。

現在、カリフォルニアのアズサ・パシフィック大学音楽学校で弦楽部及び室内楽のディレクターを務める。使用楽器は1870年製ヴィオーム。

ジアイ・シー (ピアノ) Jiayi Shi, Piano

上海出身。上海音楽院の予備学校を経て渡米。イーストマン音楽学校で音楽修士号及びピアノ・ソロの演奏家資格を取得、さらにマンハッタン音楽学校の音楽芸術博士号を取得。現在、室内楽奏者、器楽伴奏者として活躍している。モーストリー・モーツァルト音楽祭にて、ヴァイオリニストの五嶋みどり氏と共演しニューヨーク・デビューを果たす。以来世界的に著名なホールで室内楽演奏会に出演。また、ロサンゼルス交響楽団コンサートマスターのマーティン・チャリフォーやソリストの五嶋龍氏と定期的に共演している。最近では、ワシントンDC ケネディー・センターでのリサイタル、KBS (韓国) テレビ番組「Classic Odyssey」にて五嶋みどり氏と共演、ミュンヘン、名古屋でのリサイタルツアー、トロントでのラジオ出演など多岐にわたる活動に才能を発揮し、情熱を注いでいる。これまで南カリフォルニアのバイオラ大学及びラ・シエラ大学の教師を務めるほか、クラシック音楽を広めるための財団「Partners in Performances」の関連マスタークラスで教えるなど、後進の指導にも精力的にあたっている。

